

## 2020年度 阪大入試実戦模試志望動向<前期>

2020/12/01

- 全体では指数97のやや減少で、前年度模試でのやや増加の反動が見られる。文理別では、文系が指数95のやや減少、理系が指数99の微減で、前年度模試では文理ともにやや増加だったが、文系でその反動が見られる。
- 文は指数105のやや増加で、文系で唯一増加した学部だが、平均偏差値も0.4ポイントアップで、難化傾向が見られる。
- 法は指数97のやや減少だが、学科別では(国際公共政策)が指数105のやや増加、(法)が指数94のやや減少で対照的な動向となっている。
- 経済と人間科学はいずれも指数92の減少、特に人間科学は平均偏差値も0.5ポイントダウンしており、易化傾向が見られる。
- 外国語は指数90の減少だが、専攻よる動向の違いが大きいため、大学入学共通テスト自己採点集計「データネット」での志望状況を確認してもらいたい。また、2021年4月より、多くの学生には現在のキャンパスよりも通学の利便が良くなる「箕面新キャンパス」に移転が予定されている。
- 理は指数97のやや減少となっている。平均偏差値も0.4ポイントダウンでやや易化傾向が見られる。募集単位別では、(生物/生命理学)は指数138の大幅増加だが、これを除いた4つの募集単位は減少、特に(数学)(物理)(生物/生物科学)ははっきりとした減少が見られる。
- 工は2020年度入試で志願者数が増加した反動は小さく、指数98の微減。平均偏差値が0.5ポイントアップしており注意したい。学科別では、(電子情報工)は指数115の大幅増加、(環境・エネルギー工)は指数111の増加、一方で、(応用理工)は指数88と10%以上の減少と増減が分かれている。
- 基礎工は2020年度入試で志願者数が大幅減少だった反動はなく、指数98の微減だった。平均偏差値も0.4ポイントダウンしており、やや易化傾向が見られる。学科別では、専攻系統への高い人気が続く(情報科学)は指数114の増加で、平均偏差値は前年度並だが競争は激化している。一方で、(化学応用科学)は指数78の大幅減少で、平均偏差値も0.9ポイントダウンで易化傾向が見られる。
- 医(医)は2020年度入試で志願者数が大幅増加だった反動はなく、さらに指数112の増加で競争は激化している。しかし、平均偏差値は2.0ポイントの大幅ダウンで難易変化は見られない。医(保健)は2020年度入試のやや増加の反動で指数96のやや減少となっている、専攻別では(保健/検査技術)が指数112の増加、一方で(保健/放射線技術)が指数73の大幅減少と専攻間で分かれている。
- 歯は2020年度入試で2年連続大幅減少だった反動は見られず、さらに指数90の減少で、平均偏差値も0.1ポイントダウンで易化傾向が見られる。
- 薬は2020年度入試で3年連続増加だった反動から、指数86の減少で競争は緩和している。

2020年度 阪大入試実戦模試 志望状況<前期> 2020/12/01

大学	文理	学部	志望者指数		平均偏差値差	
			2020年度 /2019年度	2019年度 /2018年度	2020年度- 2019年度	2019年度- 2018年度
阪大	文系	文	105	101	+0.4	-0.2
		外国語	90	105	-0.1	+0.1
		法	97	111	+0.1	±0.0
		経済	92	100	+0.3	-0.3
		人間科学	92	109	-0.5	+0.5
	理系	理	97	111	-0.4	+0.6
		工	98	111	+0.5	-0.3
		基礎工	98	103	-0.4	+0.8
		医(医)	112	91	-2.0	+1.2
		医(保健/看護)	102	109	+0.2	+0.3
		医(保健/看護以外)	90	119	+1.4	-1.2
		歯	90	89	-0.1	-0.4
		薬	86	110	+0.3	-0.2
		文系	95	105		
		理系	99	106		
	合計	97	105			

